

『韓国語教育研究』(第12号) 別刷

ISSN 2186-2044

【研究論文】

韓国語成分副詞の語順とテキストタイプとの相関性
— ‘ㅁㅁ이[ma:ni]’ を中心に—

金 世朗

日本韓国語教育学会

2022年9月

韓国語成分副詞の語順とテキストタイプとの相関性 —‘ㅁㅁ이[ma:ni]’を中心に—

金 世朗

本稿は、韓国語の副詞‘ㅁㅁ이’に着目し、成分副詞の位置とテキストタイプとの相関性について追究することが目的である。テキストタイプごとに‘ㅁㅁ이’が基本位置を離れ用言句節の前に位置する105例を調べた結果、学生作文>体験>小説の地の文>雑誌>書籍>小説の対話文>新聞の順に語順変位していた。「新聞」「書籍」「雑誌」のように比較的硬い文体で客観的な内容のテキストは語順変位も少なく二重副詞構文と連体修飾節が共起する例が多くシンプルな様相を見せる一方で、「学生作文」「体験」「小説の地の文」のように比較的柔らかい文体で叙述性が高いテキストは語順変位も多く、多様な語順変位の様相が見られた。口語性の高い「小説の対話文」は、最も文語的特徴を持つ「新聞」の次に基本位置を守っていた。それは話されるために書かれたテキストは実際の口語の特徴を十分に反映していないという先行研究通りの結果であった。

1. はじめに

本稿は、韓国語の成分副詞‘ㅁㅁ이[ma:ni]’に着目し、新聞、雑誌、小説、随筆等の様々な文語テキストにおける語順の現れ方を分析することで、副詞の位置とテキストタイプとの相関性について追究することが目的である。

韓国語の副詞は、文章全体に関わる「文章副詞」と動詞や形容詞等の一定成分を修飾する「成分副詞」に分けられる。本研究の対象である成分副詞の文章内の位置に関して言うと¹、修飾する動詞や形容詞の直前に置くのがよく、位置制約が

¹ 成分副詞は厳密には、時間副詞、場所副詞、様態副詞、程度副詞、否定副詞、象徴副詞がある。時間副詞と場所副詞は位置移動が自由な反面、様態副詞(動作動詞修飾)と程度副詞(状態動詞修飾)、否定副詞は位置移動に制約がある。象徴副詞(擬音語、擬態語)は位置制約があるが、制約がない場合もある。また、位置制約がある様態副詞の中でも頻度副詞は語順が自由

厳しいと言われており、韓国語教育でも作文の正誤判定をはじめ学習者にもそのように指導している(金世朗 2015)。しかし、実際は(1)のように副詞が用言の直前に位置しない文章を目にする。

- (1) a. 가장 많이 이익을 넌 것으로는 지난 9 월 17 일 1 억 5 천만원을 벌어들인
것이라 한다. (조선일보경제(93)신문:보도해설-경제)
- b. 직원 입장에서는 별도의 제한이 없는 한 많은 식사를 할 것이고,
식당으로서는 무슨 방법을 동원해서라도 직원들이 많이 식사를 하도록 노력할
것이 틀림없다. (중앙일보(1999) 칼럼 중앙일보사)

(1)のように成分副詞が用言‘넌’と‘하도록’の直前に位置しないことに関して、従来は文体上の理由からであると説明されていた(朴秉洙 1976)。しかし、その具体相に関して追究しようとする研究はなかった。このような問題点を踏まえ、金世朗(2019)では、文語コーパスを利用し、韓国語学習者の使用が多く語順の誤用頻度が最も高い成分副詞‘많이’に着目し、用言の直前に位置しない例を中心に分析を行った。その結果、それらの用例から一定の文構造上の傾向があることと、文体的理由といわれるものがどういうものかが明らかになった。しかし、文語と言っても多様なジャンルがある。金世朗(2019)では語順変位²がどのような文章で起きているかに関しては考慮せず、課題として残っている。本稿では成分副詞‘많이’に着目し、金世朗(2019)で明らかになった語順変位の傾向と合わせて、副詞の位置とテキストタイプとの相関性について究明していくことにする。

と言われている(손남익 1995)。本稿における成分副詞の語順に関する議論は、語順制約が厳しく韓国語学習者に誤用が多く見られる様態副詞と程度副詞の語順に関するものとする。

² 金世朗(2019)では、‘많이’の 98.1%が用言前に位置していた。よって‘많이’の基本位置を用言前とし、用言前から離れて用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置することを「語順変位」と呼んでいる。

2. 成分副詞の語順研究と韓国語のテキストタイプ

成分副詞の語順研究において、テキストの特徴を考慮した研究はあまりない。

(2) 자넨 아주 윤이 나쁘군.

(3) 정말 저두 제 아이를 위해서 개가 원하는 걸 해 줬지 뭐 제가 그 해줬다는 그…

徐常揆(1991:18-19)は、(2)を示し、副詞‘아주’が形容詞と共起する場合、いわゆる二重主語の構文では程度副詞の語順は述部の内部で非常に自由であると述べている。しかし、例文を見ると口語性が強い文章である。一方、口語と程度副詞の語順に関する研究に신지연(2002)と배진영(2012)がある。신지연(2002 : 83)は、語順制限が厳しい程度副詞であっても、口語では(3)のように文頭に位置し文章全体を修飾する文章副詞のような働きをすと言う。배진영(2012:132-134)も、程度副詞は用言の直前に位置しないと間違いであると考えられる傾向があるが、新聞や学術散文は被修飾語の直前に位置する反面、口語においては副詞の位置が自由であると述べている。即ち、このような口語の特徴を考えると、小説等の対話文を含むジャンルの文書も副詞の語順を考える時に考慮すべきであると考えられる。

また、副詞の研究ではないが、統計的な方法を用い、口語と文語の韓国語の多様なテキストに現れる言語的特徴を分析した研究がある。강범모他(1998)では、強い文語的特徴を持つジャンルとして、新聞、法律の条文、書籍の序文、教養/学問等を挙げており、電話対話/放送、日常対話、放送対話、ドラマ対話、対話-小説、対話-演劇等のジャンルは口語的特徴が強いものとしている。しかし、日常対話のように実際話されたものと、小説の対話文のように話されるために書かれたものは違いがあると述べている。模倣された対話文は相互性が主に強調されており、実際の発話で見られる実時間発話性、例えば間投詞‘그니까’、‘자, 이제’等の談話確認標識と‘조금, 아마’のような躊躇語等が、模倣された対話文にはあまり反映されていないと言う³。さらに、강범모他(1998)は、強い文語性を持ち叙述性が高いジャンルとして、小説の地の文、童話、随筆、日記、伝記、紀行を一つのタイプに入れている。小説という同じジャンルでありながら、地の文と対話文でこのような差異があることは注意すべきであろう。副詞の位置はどのような様相を見せ

³ なお、강범모他(1998:23-26)の調査結果を参考にすると、模倣した口語テキストにおいて複文の比率が低いことや短い単語と短文の使用が多く見られ、これらも実際の対話文と異なる特徴であった。

るだろうか。

以上から、実際の発話と口語性が強い文語テキスト、文語性が強い文語テキストとは、異なる特徴があることがわかる。本稿では、成分副詞‘많이’の語順に着目しテキストのタイプごとにどのような傾向を呈しているかを見ていくことにする。なお、口語における語順の自由さを考慮し、資料は基本的に文章で書かれた文語データのみを対象とする。

3. 成分副詞‘많이’の語順について—金世朗(2019)の結果

金世朗(2019)は、韓国国立国語院の21世紀世宗計画において作成、提供しているコーパスを用いている。当該研究では文語データにおける‘많이’の語順の特徴を明らかにしている。「現代文語」「形態分析」「一般副詞」という3つの条件を与え、‘많이’が使用されている6,403用例を抽出している⁴。そのうち、用言の直前に位置するのは6,281例(98.1%)で、‘많이’の基本位置は用言前であることが確認できた。一方、用言前から離れ、用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置する例は105例であった⁵。先行研究では成分副詞の位置移動の理由は「文体上の理由」とのみされていたが、105例の特徴を分析した結果、表1のような一定の文構造上の傾向が見られた。

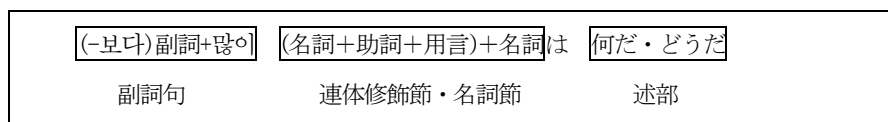
<表1> ‘많이’+用言句節「名詞+助詞+用言」における傾向

① ‘많이’の意味の強化によるもの
i 二重副詞文
a. 더(욱) 많이, 가장 많이, 너무(도/나) 많이…
b. -보다(더/훨씬) 많이
c. 얼마나 많이, 어떻게 많이…
ii ‘많이’+補助助詞(도/も)
② 「動作の主体・対象+많이+用言句節」構文
③ 用言句節が一つの意味単位として機能するもの：慣用句・分離用言など

⁴ データのダウンロードは、2015年9月21日から23日にかけて行った。

⁵ ‘많이’が用言前に位置する例は6,281例で、用言句節の前に位置する例は105例であった。残り17例は、すべて副詞(否定副詞(안/못)が13例、一般副詞(呑)が4例)が‘많이’の後部に位置しているものである(金世朗 2019:87-88)。

‘더 많이’のように‘많이’の前に副詞が置かれたり、‘많이도’のように後ろに補助詞‘-도’が付いたりして‘많이’の意味が強化される場合に、修飾範囲が広くなり述部全体を修飾する傾向を見せていた。特に二重副詞文は 105 例中 68 例(64.7%)あり、比較構文が多く含まれていることと連体修飾節・名詞節類と共起するものが半数近くあることから、図 1 のような文構造において‘많이’が基本位置を離れ、用言句節の前に置かれる強い条件だと判断された。



<図 1> ‘많이’が位置変位する強い条件

(4) 아침 9 시에 대회가 있는 대구 국민학교에 가니 벌써 아이들이 많이 운동장에 놓고 있고 선생님들은 청소 지도에 분주하다.

(이오덕의 교육일기)

また、(4)で見るとように‘많이’が先行する動作の主体や対象に焦点を置きながら、後部の用言句節全体に関わる用例も多く、数量副詞ならでの機能をしていた⁶。他に、用言句節が一つの意味単位として機能する場合、‘많이’はその用言句節前に位置する傾向を見せていた。その多くが‘걱정(을)하다, 안정(이)되다, 고통(을)받다’のように名詞と用言の間の助詞が省略できる分離用言⁷で、前の名詞が人間の心理や抽象的な概念を持つものが多かった。また‘답(을)쌓다’のような慣用句や‘필요로 하다, 차이가 나다, 눈에 띄다’は、用言句節前に‘많이’を置く傾向があった。このような傾向は、「強調」「焦点の移動」「表現効果のための書き手の意図」といった文体的な理由と合わさって‘많이’の位置が決まることがわかった。より詳しい内容は金世朗(2019)を参照されたいが、本稿ではこれらの傾向がさまざまな文語テキストにおいてどのように現れるかその特徴をみていくことにする。

⁶ 임유중(1999:52)は用言が動詞と存在詞の時の‘많이’と‘조금’は、数詞の特性を表し先行する体言の意味を修飾すると述べている。

⁷ 分離用言とは、菅野祐臣(2003:1033)によるもので、二つの構成要素の間に助詞が入って2単語のように見えるものを指す。

4. ‘ㅁㅇ이’+用言句節のジャンル別頻度

世宗コーパスの文語テキストは、大きく新聞、雑誌、書籍、その他の出版物、その他の非出版物で構成され、各ジャンルはさらに下位分類される。例えば、新聞は報道解説、生活、社説等に細分される。‘ㅁㅇ이’が基本語順を守らず用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置する 105 例をジャンル別にまとめたものが表 2 である。

<表 2> ‘ㅁㅇ이’+用言句節(105 例)のジャンル別頻度(1)

ジャンル 上位分類(単純頻度)	ジャンル 下位分類	語順変位の比率 相対頻度(単純頻度/全体頻度)
新聞(7)	報道解説-経済/政治/文化(3)、生活(2)、社説(1)、コラム(1)	0.95% (7/734)
雑誌(14)	人文-教育(6)、生活(4)、社会-経済(1)、総類-時事(1)、体験記述的テキスト(1)、想像的テキスト(1)	1.68% (14/832)
書籍(70)	想像的テキスト(23)、体験記述的テキスト(13)、教育資料(8)、人文-思想/一般/心理(7)、芸術論(6)、社会-経済/一般/情報/大衆文化(5)、総類-情報(5)、自然-保険医学/一般(3)、	1.59% (70/4400)
その他の出版物(4)	実記/ルポ(4)	1.95% (4/205)
その他の非出版物(10)	大学生作文(10)	5.75% (10/174)

表 2 で見る通り、‘ㅁㅇ이’は実に多様なジャンルにおいて基本位置を離れている。배진영(2012)では、新聞と学術散文は副詞が必ず用言の直前に位置すると述べていた。배진영(2012)で示す「学術散文」の例を調べると、書籍の社会・情報、人文・言語、自然・一般、芸術論、総類・情報、体験記述的テキスト(随筆)の下位ジャンルが含まれていた。表 2 によるとそれらのジャンルにおいても例外なく位置変位していることがわかる。

まず、単純頻度で考えると「書籍」が 105 例中 70 例(66.67%)で最も多く、実記/ルポを含む「その他の出版物」が 4 例で最も少ない。しかし全体頻度を考慮し相対頻度(表 2 の右)で考えると、「新聞」が 0.95%で最も低く、「その他の非出版物」

が 5.75%で最も高い。要するに、基本語順を最も守っているのは「新聞」で最も守っていないのは大学生作文を含む「その他の非出版物」になる。ただ、表 2 のジャンルの下位分類を見ると、「想像的テキスト」(小説、童話類)と「体験記述的テキスト」(随筆類)は上位ジャンルの「雑誌」と「書籍」の両方に含まれている。これらのジャンルは芸術的ジャンルと言われ(苅谷 1998)、情報伝達を目的とする人文、社会、自然等の分野とは性格を異にする。よって副詞の位置とジャンルとの関連性をより正確に知るためには、これらを再分類する必要がある。ちなみに「その他の出版物」は実記ルポとなっているが、内容的には随筆、体験記述類だったのでこれも「体験記述的テキスト」に入れて再分類した。以下、随筆、手記、紀行文類を含む体験記述的テキストはすべて「体験」、小説・童話類の想像的テキストは「小説」、「その他の非出版物」は大学生作文のみなので「学生作文」に分類して記す。さらに小説の中の対話文は口語性が強いことから、「対話文」と「地の文」に分ける。このように再分類してジャンル別頻度をまとめたものが表 3 である。

<表 3> ‘ㅁㅇ이’+用言句節(105 例)のジャンル別頻度(2)

文語全体	新聞	雑誌	書籍	小説 1329		体験	学生作文
6403 例	734	769	2764	対話文 697	地の文 632	642	165
105 例(1.64%)	7(0.95%)	12(1.56%)	34(1.23%)	8(1.14%)	16(2.53%)	18(2.8%)	10(6.1%)

* ()中の割合は相対頻度である。なお、「雑誌」と「書籍」は、「想像」と「体験」の用例を除いた用例数である。

表 3 により、‘ㅁㅇ이’の語順変位率が高い順に並べると、学生作文(6.1%)>体験(2.8%)>小説の地の文(2.53%)>雑誌(1.56%)>書籍(1.23%)>小説の対話文(1.14%)>新聞(0.95%)の順になる。最も基本位置を守っているのは「新聞」で、最も守っていないのは「学生作文」なのは表 2 と同様の結果である。しかし、口語性の高い「小説の対話文」が「新聞」の次に基本語順を守っていることと、苅谷(1998)で強い文語性を持つとされていた「体験」と「小説の地の文」において却って語順変位が多くなっていることは、表 3 で改めてわかったことである。以下からは各ジャンルの文章における‘ㅁㅇ이’の具体的な語順様相を見ていくことにする。

5. ジャンル別副詞 ‘많이’+用言句節の語順様相

5.1 「新聞」

「新聞」は、‘많이’が使用されている全用例数 734 例中 7 例(0.95%)のみが用言句節の前に位置しており、最も基本位置を守っているジャンルである。語順変位しているのは、表 2 の通り書き手の見解や主張を含む社説やコラム以外に、客観的な情報伝達を目的とする経済、政治、文化のジャンルでも見られる。7 例の文構造上の特徴を見ると、6 例が二重副詞構文で、そのうち 4 例が「副詞句(二重副詞)+連体修飾節・名詞節+述部」の構造をしている。(5)はその典型的な例である。

(5) 앞으로 지방 자치체가 실시될 경우 그린 벨트의 행위 허가 권한은 더 많이 지방 자치단체로 위임할 가능성이 높아지고 있다. (조선일보 칼럼(90))

‘많이’の前に位置する副詞は‘가장(4),더(2)’である。これらは、主張したい事柄を強調したり他と比較したりすることで客観性を確保するための使用だと考えられる。

(6) 항공사는 승무원 등 특히 여성을 많이 필요로 합니다. (조선일보 생활(93))

「新聞」で‘많이’が単独で使用されている例は(6)の 1 例のみであった。‘필요로 하다’は、名詞と用言を分離して使用できないので副詞を用言の前に置くことができない。また、(5)と(6)の‘많이’は先行する‘행정 허가 권한’と‘여성’に焦点を置きながら後部の用言句を修飾していることも特徴である。

以上「新聞」では、副詞が用言の前に位置できない‘필요로 하다’以外は、すべて二重副詞構文で連体修飾節・名詞節と共起している例が多かった。最も文語的なテキストにおける特徴と言える。

5.2 「書籍」

「書籍」は‘많이’が使用されている用例数が 2,764 例で最も多く、そのうち用言前に位置していないのは 34 例(1.23%)で、「新聞」の次に基本位置を守っている。‘많이’が語順変位している用例には、「教育資料」(8 例)、「人文」(7 例)、「芸術」(6 例)、「社会」(5 例)、「総類」(5 例)、「自然」(3 例)の下位ジャンルが含まれる。

これらは、배진영(2012)で基本位置を守ると述べた「學術散文」に属するジャンルである。「書籍」は、説明的で専門性を帯び、硬い書き言葉のテキストが多かった。語順変位している用例には二重副詞構文が多い(34例中18例)が‘많이’の前に立つ副詞は‘더(6), 가장(5), 보다, 훨씬, 별스럽게, 너무, 세부적으로, 그만큼, 될 수 있는 대로’で多様である。強調の度合いが最も高い‘가장’と‘더, 보다, 훨씬’等の比較を表す副詞が多いことが注目される。内容に客観性をもたらす書き手の見解を明確に示すための使用であろう。またこれらの二重副詞文は、連体修飾節・名詞節と共起している例が18例中9例見られた。

- (7) 따라서 여성과 가난한 사람들이 더 많이 스트레스에 노출되어 있기 때문에 우울증 같은 특정한 심리학적 장애가 더 높은 것은 당연한 것으로 생각된다.
(심리학개론/1991/책:인문)

さらに「書籍」では、‘많이’の後部の用言句節が一つの意味単位として機能するものが14例見られた。‘눈에 띄다(3), 필요로 하다(2), 차이(가) 나다, 예로 들다, 고통(을)받다, 지배(를)받다, 가지치기(를)당하다, 혼인(을)시키다’等である。その多くが分離用言であるが、‘고통받다’のように名詞と用言の間に助詞がなくともいいところを、間に助詞を入れることで強調の気持ちを追加している。ただ‘많이’の後部が一つの意味単位として機能する用例の中には、(8)のように後部の‘예로서 들고 있거니와’の修飾だけでなく、先行する名詞‘상태’の量に焦点を置いている場合が多かった(9例)。

- (8) 카우프만의 저서, [공간의 감정체험]은 우리의 지각에 있어서 타자의 차원이 무너질 때 불가피하게 일어나는 병적인 상태를 많이 예로서 들고 있거니와 초연의 자세 자체가 타자적 차원의 뒷받침으로만 가능하다 할 수 있다.
(심미적 이성의 탐구)
- (9) 바다의 높이가 그때보다 지금은 더 높아졌기 때문에 그들이 살던 자리가 많이 바다 속으로 묻혔을 가능성이 짙다. (길은 길을 따라 끝이 없고)

反面、(9)で見ると二重副詞構文でも後部の用言句節が一つの意味単位でもない用例が見られた(1例)。(9)において‘많이’の位置は先行名詞‘자리가’の後以外は不自然である。それは‘많이’が表す数量の焦点が‘자리가’に置かれているため

ある。

以上、「書籍」で語順変位している文章は、二重副詞文が多く、中でも比較構文や連体修飾節・名詞節と共起している場合が多かった。この点、「新聞」と類似しているが、多様な副詞が‘많이’の前で使用されていることは「書籍」の特徴である。また、用言句節が一つの意味単位として機能する場合と先行名詞に焦点が置かれている用例も目立った。

5.3 「雑誌」

「雑誌」は、‘많이’が使用されている 769 例のうち、用言の直前に位置しない例は 12 例で全体の 1.56%であった。「教育資料」(6 例)、「生活」(4 例)、「時事」(1 例)、「経済」(1 例)の下位ジャンルから見られ、これらはさらに硬い書き言葉(7 例)と柔らかい書き言葉(5 例)に分けられた。

- (10) 채점자의 주관이 가장 많이 영향을 미치는 논술 채점에 ‘다양한’ 주관이 개입될 여지를 대학 스스로 열어 놓은 이유가 뭘지 의구심이 드는 것은 당연하다.
(우리교육 초등용 94/11)
- (11) 벽에는 몇 마리의 도마뱀이 붙어 있고, 처음에는 많이 당황을 했지만 이것 또한 여행의 좋은 경험이라 자위하며 잠을 청했지만 도대체 잠이 오질 않는다.
(레이디경향, 1994)

(10)は硬い書き言葉の例であるが、情報伝達を主としながら書き手の主張や見解が入っている。これらの文構造上の特徴は、二重副詞文と連体修飾節が共起しているものが 7 例中 4 例あったことだ。‘많이’の前に立つ副詞は、‘가장(3), 더(1)’で、他は用言句が一つの意味単位である‘필요로 하다’と‘눈에 띄다’が見られた。「新聞」ジャンルで見られた傾向と類似した様子である。

一方、柔らかい書き言葉の 5 例は、手記や紀行文等体験的な内容であった。(11)で見るように、日常的な内容の文章である。二重副詞と連体修飾節が共起しているのは 5 例中 1 例で、後の 4 例は句が一つの意味を持つ‘당황(을)하다, 회복(이)되다, 눈에 띄다, 이사(를)가다’であった。そのうち、‘당황(을)하다, 회복(이)되다’は、動作性より状態性が優勢な句である。また、動作性が優勢な‘눈에 띄다, 이사(를)가다’は、(12)で見るように先行名詞に‘많이’の焦点が置かれている場合であった。

- (12) 요즘 우리집 주변은 완전히 폐허같다. 재개발이 된다고 해서 사람들이 많이
이사를 갔다. (우리교육 초등용 94/11)

「雑誌」は、硬い書き言葉と柔らかい書き言葉に分けられた。前者は書き手の主張や見解を表しており「二重副詞+連体修飾節」の文が多く、「新聞」と類似した傾向を見せていた。後者は日常的な内容で、句が一つの意味を持つ場合が多く、動作性より状態性を持つか、先行名詞に焦点が置かれているものだった。

5.4 「体験」

「体験」には、主に随筆と随筆論が含まれる。‘많이’が使用されている全用例数 642 例中 18 例(2.8%)が用言句節の前に位置していた。文語テキストでは「学生作文」の次に語順変位しているジャンルである。

(13)~(15)で見るように‘한다’体、助詞の非省略、와/과、複文等の使用から典型的な文語テキストと言えるが、個人的な体験や考えに基づいた内容で抽象的で主観的な文章が多い。

- (13) 무지한 사람들이 어떻게 많이 어린이들의 얼굴에 슬픈 빛을 지어 주었느냐.
(한국 현대 수필을 찾아서)

「体験」で語順変位している例の目立つ傾向は、他のジャンルと同様に二重副詞文が多い。全 18 例中 15 例が二重副詞構文で、‘더(6), 너무(2), 너무도, 꽤, 부쩍, 되도록, 얼마나(2), 어떻게’が‘많이’の前に位置していた。二重副詞構文において多様な副詞が使用されていることや比較構文が多い傾向は「書籍」と類似しているが、最高の強調性を持つ副詞‘가장’が見られないことと、‘얼마나, 어떻게’の使用が見られることである。一般的に‘많이’の二重副詞構文では、‘많이’が主でその前の副詞は‘많이’の程度を具体的に示して強調する役割を果たす。しかし、‘얼마나, 어떻게’は、‘많이’が‘얼마나, 어떻게’の数量と程度を具体化し強調する働きをする。(13)を見ると‘어떻게’は、感嘆の程度の大きさを表すもので文末の‘-냐’と呼応する。‘어떻게’が修飾するのは、後部全体の‘어린이들의 얼굴에 슬픈 빛을 지어 주었느냐?’で‘많이’は用言‘지어 주었느냐?’の前に位置すると不自然である。

(14) 혼인이 인격의 만남이어야 한다는 기대가 클수록 그러한 기대가 충족되지 않을 때에 부부 관계는 더 쉽게, 그리고 더 많이 상처를 받게 마련이다. (결혼과 성)

また、もう一つ「体験」における二重副詞構文からは今までのジャンルでは見られなかった用例が見られた。(14)の‘충족되지 않을 때에 부부 관계는’は、‘상처를 받게 마련이다’に関わっており、副詞句‘더 쉽게’と‘더 많이’の2つの副詞句を用い詳しく説明している。この場合、‘많이’は用言前に位置することはできない。また、‘상처받게 마련이다’でもいいが、間に助詞‘를’を挿入することで強調している。読み手を説得するための書き手の意図による表現技巧と言える。「体験」で語順変位している二重副詞構文の15例中にこのような例は5例あった。

(15) 나는 순대가 굵도록 퍼마시던 대포와도 꽤 많이 담을 쌓고 심심풀이로 수석이며 서화난초 등에 순대기 시작했다. (가장 작은 것으로부터의 사랑)

他に目立つ傾向として用言句節が一つの意味単位を成している用例が7例あったことだ。‘눈에 띄다(3), 담(을) 쌓다, 신경(을)쓰다, 희생(을)당하다, 상처(를)받다’である。慣用句と分離用言である。(15)の‘담(을) 쌓다’は句全体で‘やめる’という意味なので‘많이’が用言の前に入ることはできない。他の分離用言は、状態性が強いもので名詞と用言の間に助詞を入れ強調の気持ちを表している。

(16) 논리학에서 말하는 ‘배중률’의 그물에 걸리는 사고방식을 가진 사람들이 많이 눈에 띈다. (차 한 잔의 사상)

「体験」には他に、‘많이’単独で使用されている例も3例あったが、(16)で見るように先行名詞に焦点を置いて後部の用言句全体を修飾する例であった。

以上、「体験」は、文語性が強いテキストであったが、多様な様相が見られた。二重副詞構文において多様な副詞が使用されることと、芸術的ジャンルらしく2つの副詞句が一つの述部を修飾する例も見られた。表現効果の手段であろうが、‘많이’の位置は用言の直前よりは用言句節の前がふさわしいものが多く、「新聞」「書籍」「雑誌」では見られない特徴だった。また、用言句節が状態性を持つ一つの意味単位であったり、先行名詞に焦点が置かれたりした場合に‘많이’は用言句節前に位置していた。

5.5 「学生作文」

「学生作文」は、‘많이’が使用されている全用例数 165 例中 10 例(6.1%)が用言句節の前に位置していた。用例数は少ないが、割合では文語テキストの中で最も語順変位しているジャンルである。「学生作文」には読書や演劇等の感想文、旅行後記、手紙文等が含まれ、個人的な体験や感想が述べられている。3 例の手紙文以外は、典型的な書き言葉であるが全体的に固有語の使用が目立つ。(18)のように口語性の強い副詞‘무지’が混用されるといった特徴も見られる。

(17) ‘광복 50 주년’ 방송에서 많이도 언급이 되었고 또 여기저기서 여러 문화 행사가 치러지곤 했지만 실질적으로 내가 그것이 어떤 의미를 갖는가는 그리 생각해 본 기회가 없었던 것 같다. (고려대학교 교양 국어 작문(교육학과))

(18) 9 박 10 일의 일정으로 떠나는 것이기 때문에 준비해야 할 것은 무지 많았다. 특히 옷 때문에 많이 걱정을 했다.

(고려대학교 교양국어 작문자료(국어교육과))

(19) 너무 많이 수다를 떨었지? 아직도 할 말이 많은데.

(고려대학교 교양 국어 작문(교육학과))

「学生作文」で最も目立つ特徴は、10 例とも‘많이’の後部の用言句節が一つの意味単位として機能するものであるということだ。‘눈에 띄다(3), 걱정(을)하다, 위로(를)받다, 언급(이)되다, 안정(이)되다, 적응(이)되다, 수다(를)떨다, 이야기(를)하다’であるが、‘눈에 띄다’を除いては分離用言である。また、分離用言の多くが動作性よりも状態性が強い心理名詞‘걱정, 위로’等や‘-되다/-받다’動詞類であることが「学生作文」における大きな特徴である⁸。分離用言のうち動作性の強い‘이야기(를)하다, 수다(를)떨다’は、(19)で見るように手紙文だった。

また、「学生作文」では二重副詞文(4 例)と、驚きと批判、感嘆の意を含む補助詞‘-도’(2 例)の使用例が見られた。‘많이’の前に立つ副詞は‘가장, 너무, 참, 그리’で多様であった。また‘참 많이도’のように程度副詞と‘많이도’が一緒になり、強調の気持ちを表していた。

「学生作文」は、文語的なテキストと口語的なテキストが混在していた。語順

⁸ 한영균·고은아(2011:377)では、감사, 걱정, 고생, 고심, 근심, 당혹, 당황, 분노, 사랑等は心理的状态性を表しており、形容詞的な意味を持つと言っている。また、홍사만(2002)では-되다, -받다, -당하다は状態性が強く程度副詞の修飾が受けられると指摘している。

変位している全用例の‘많이’の後部の用言句節が一つの意味単位として機能するものであった。また、二重副詞文は多様な副詞が‘많이’を修飾しており、補助詞‘도’との共起も注目された。このいずれも‘많이’の度合いを主観的かつ感情的に強調する働きをしているものと考えられる。

5.6 「小説」

「小説」には童話や小説のテキストが含まれる。‘많이’が使用されている用例数は1,329例で、そのうち語順変位しているのは23例(1.73%)である。さらに、「対話文」と「地の文」別の変位率を見ると、「対話文」が7例(1%)で、「地の文」が16例(2.53%)になっており、口語性の強い「対話文」が「地の文」より基本位置を守っている結果は注目される。ここから「地の文」と「対話文」の順に‘많이’の語順変位の様相を見ていくことにする。

5.6.1 「地の文」

「小説」は、物語の内容を読者に伝わりやすくするため、「地の文」において状況説明や登場人物の心情等を詳しく説明していると考えられる。文体的には非専門的で硬くない書き言葉の文章が多く、他のジャンルに比べ固有語の使用も目立つ。

- (20) 그보다도 엄마는 아가들을 위해 더 많이 일을 하고 싶어, 무엇이나 엄마 손으로 직접하기에 밤낮을 가릴 수 없이 바빴습니다. (플래가 보고 온 달나라)
- (21) 해가 꽤 많이 정남쪽으로 왔을 때였습니다. (고향을 지키는 아이들)
- (22) 형은 수없이 많이 필름을 사고 사진을 찍고 인화를 했다. (식물들의 사생활)

「地の文」において、‘많이’が語順変位しているのは632例中16例であるが、最も目立つ傾向は、12例が二重副詞構文であることだ。‘많이’の前に位置する副詞は、‘더(4)/ 더욱, 가장, 제일, 꽤, 훨씬, 수없이, 하도, 될수록’のように多様で、中には‘하도, 꽤, 훨씬’のように口語性の強い副詞が使用されていることが特徴である。

語順変位している用例において、次に目立つ傾向は、‘많이’の後部の用言句節が一つの意味単位を成しているものが12例あることだ。そのうち、分離用言が6例、

‘눈에 띄다’가 4 例、修辭法による使用例が 2 例ある。分離用言は、일(을)하다(2), 무리(를)하다, 후회(를)하다, 배(가)고프다, 목(이)타다である。動作性の強い ‘일(을)하다’は(20)で見るように二重副詞構文と共起している。他はすべて状態性が強い句である。助詞がなくてもいいところに助詞を入れて強調の気持ちを表している。

(21)は修辭法の一つと言えるが、12 時になったことを‘해가 정남쪽으로 왔다’で表現している。この場合、‘꽤 많이’または‘많이’が用言‘왔을 때’の前に置かれると、太陽が人間のように行動するといった別の意味になる。

他に(22)のような例も見られた(1 例)。「수없이 많이」は、‘필름을 사고’と‘사진을 찍고’、‘인화를 했다’の三つの句に関わっている。この場合、副詞は用言の直前に入ることは難しい。このような表現技巧は「体験」ジャンルで見られた傾向である。二重副詞文と分離用言の使用は、読み手に状況や登場人物の心理等の状態を納得させるための表現効果だと考えられる。

5.6.2 「対話文」

小説の中の対話文は、文語コーパスでは最も口語に近いテキストである。「小説」で‘많이’が使用されている 1,329 例中、対話文は 697 例あり、そのうち、8 例(1.14%)が語順変位している。「新聞」に続いて基本位置を守っているテキストになる。8 例中 4 例が二重副詞構文であった。2 例は‘얼마나, 이렇게’が使用され、2 例は‘더, 남보다’が使用されている。

(23) “어디 좀 펴봐야지! 뭘 이렇게 많이 무역을 해가시나?”하고 제멋대로 풀기를 시작한다. (만세진)

(24) 다도파란, 많을 다, 도성 도, 물결 파인데 결국 많이 도망들을 가니깐 꺾테기만 남은… (열린 사회와 그 적들)

‘얼마나, 이렇게’は、感嘆の程度の大きさを表すもので、他の二重副詞文と異なり‘많이’が‘얼마나, 이렇게’の程度性を強調する役割をしている。意味上、後部全体の修飾に関わっており、用言句節の前がより自然である。

「対話文」において、‘많이’が単独で使用されている用例のうち、2 例は‘필요로 하다’で、残りの 2 例は(24)で見る通り、‘많이’が文中では省略されているが先行名詞‘다도파(사람들이)’に重点を置きながら後部の分離用言‘도망(을)가다’を修飾

する例であった。

以上、「小説」では口語性が強い「対話文」より「地の文」において語順変位を起こしていた。「地の文」と「対話文」は、いずれも二重副詞構文と用言句節が一つの意味単位を成すものが多い傾向が見られた。しかし、「地の文」で見られた状態性を持つ分離用言の使用、修辞法による使用、一つの副詞句が3つの動詞句を修飾するといった表現技巧は「対話文」には見られなかった。「対話文」は、二重副詞構文において‘얼마나, 이렇게’の使用が見られたこと以外に、比較構文の使用や、‘필요로 하다’、先行名詞の修飾による語順変位等多様な様相が見られた。

6. おわりに

本研究は、成分副詞‘많이[ma:ni]’の語順とテキストタイプに着目し、副詞の語順変位がどのようなジャンルや文体的特徴のある文で起きているかについて、金世朗(2019)の結果と合わせて分析を行い、副詞の位置とテキストタイプとの相関性について追究することが目的であった。

まず、文語コーパスをジャンル別に分類し、副詞‘많이’が語順変位している比率を調べた。その結果、学生作文(6.1%)>体験(2.8%)>小説の地の文(2.53%)>雑誌(1.56%)>書籍(1.23%)>小説の対話文(1.14%)>新聞(0.95%)の順に語順変位していた。最も語順変位しているのは「学生作文」で、最も基本位置を守っているのは「新聞」であった。しかし、口語性の強い「小説の対話文」が「新聞」の次に基本語順を守っていることと、「体験」と「小説の地の文」において語順変位が多くなっていることは、意外な結果であった。

客観的な情報伝達を目的とする「新聞」では、副詞が用言の前に位置できない‘필요로 하다’以外は、すべて二重副詞構文で連体修飾節・名詞節と共起していた。‘많이’の前に位置する副詞も‘가장, 더’のみでシンプルな傾向が見えた。二重副詞構文で見られる副詞の種類や後部の用言句節が一つの意味単位である場合の用例が増え、連体修飾節・名詞節との共起は減る等やや傾向の差はあるが、「新聞」に類似した傾向を見せるのは「書籍」と「雑誌」であった。語順変位率が低いジャンルである。これらのジャンルは、比較的客観的で専門的な内容を中心に、書き手の見解や主張を明確に示すための表現効果として語順変位している様子がうかがわれた。一方で、語順変位が多い「学生作文」と「体験」は、個人的な体験

や主観的な考えを綴っている面では類似しているが、「学生作文」は、用言句節が状態性を帯びる分離用言である場合が多かった。補助詞‘-도’と二重副詞構文との共起も見られ、全体的に主観的で感情的な用例が多い傾向であった。一方、「体験」は、二重副詞構文の使用が多く、使用副詞も多様であるうえに、他の程度副詞とは異なる用法を持つ‘얼마나, 어떻게’が使用されていた。また、二つの副詞句が一つの用言句を修飾する等の表現技巧が目立って見られた。このジャンルにおいては用言の直前より用言句の前の方が副詞の位置としてふさわしい場合が多かった。「小説」は、「地の文」が「対話文」より語順変位していた。「地の文」は、多様な副詞使用による二重副詞文の使用と修辭法による表現句の使用、一つの副詞句が3つの動詞句を修飾するといった表現技巧が見られる点で、「体験」ジャンルと類似した傾向が見られた。一方、「対話文」は、二重副詞構文において‘얼마나, 어떻게’の使用以外に、比較構文の使用や、‘필요로 하다’、先行名詞の修飾による語順変位など多様な様相を見せていた。

以上で語順に着目してジャンル別特徴をまとめたが、語順変位率が低い「新聞」「書籍」「雑誌」は比較的シンプルな様相を見せ、語順変位率が高い「学生作文」「体験」「小説の地の文」と語順変位率は低い方に入る「小説の対話文」は、多様な様相を見せていた。語順変位率が高い「学生作文」「体験」「小説の地の文」は、体験的で主観的な要素が濃い内容の文であった。中でも芸術的ジャンルと言われる「体験」と「小説の地の文」は、本研究においても非常に類似した傾向を見せていたことは注目される。一方で口語性の高い「小説の対話文」が最も文語的テキストである「新聞」の次に語順変位率が低かったことは意外な結果であった。これは강범모他(1998)が指摘した通り、実際の口語と‘話されるために書かれた’ものは異なるということと関連していると考えられる。강범모他(1998)によると、模倣された口語テキストは、文章と単語の長さが長くなく一つの文章に動詞が二つ以上現れる複文もほとんどない結果であった。また、相互交流の部分のみを反映しており実時間発話性が十分に表れていないと指摘している。「小説の対話文」が「新聞」の次に基本語順を守っているのは、比較的単純な文が多いうえに、瞬時に発せられるものではなく発話する内容を計画的に算出していることが原因であると予想される。要するに、成分副詞の位置とテキストタイプとの相関性を考慮した場合、口語においてはその位置が自由であるとはいえ、模倣された口語テキストではその自由さがそれほど現れないということになる。

以上で、成分副詞‘많이’に着目し、様々なテキストにおける語順の現れ方を分析

した。本研究を通して、副詞‘많이’の位置がテキストごとに一定の傾向を見せることが確認できた。しかし、今回は‘많이’だけの分析である。今後、他の位置制限が厳しい成分副詞の分析を続け、テキストタイプと副詞の語順との相関性に関する研究を深める必要を感じる。一方で韓国語教育においては、副詞の語順に関する研究はまだあまり行われていない。副詞の語順における学習者の誤用率は高く、よりよい教育のために今後もさらに成分副詞の語順研究を進め、教育に生かすべきであると考えている。

参考文献

[日本語文献]

国際太郎(1965)『国際地域学入門』国際地域館

菅野裕臣(2003)「文法概説」『コスモス朝和辞典』(第2版)白水社

金世朗(2015)「韓国語成分副詞の語順教育における問題点について—韓国語教育の立場から—」『新潟国際情報大学国際学部紀要』創刊準備号, pp.65-71.

金世朗(2019)「成分副詞 ‘많이[ma.mi]’の語順について」『韓国語教育研究』第9号, pp.82-101.

徐常揆(1991)「現代朝鮮語の程度副詞について—副詞<아주>の<程度>と<様態>の意味を中心に—」『朝鮮学報』140, pp.1-62.

[韓国語文献]

강범모・김홍규・허명희(1998)「통계적 방법에 의한 한국어 텍스트 유형 및 문체 분석」『언어학』(22), pp.3-57.

朴秉朱(1976)「양태부사에 대하여」『언어』1(1), pp.151-167.

배진영(2012)「구어와 문어 사용역에 따른 정도부사의 분포와 사용 양상에 대한 연구」『국제어문』제54집, pp.95-140.

손남익(1995)『국어부사연구』박이정

신지연(2002)「정도부사의 범주화 기준에 대하여」『어문학』, pp.71-87.

임유중(1999)『한국어 부사 연구』한국문화사

한영균・고은아(2011)「유의적 정도부사의 빈도 분포 결합관계의 분석과 그 활용-학습자 사전의 용법 기술의 관점에서-」『한국어의미학』35, pp.335-394.

홍사민(2002)「한·일어 정도 부사의 대조 연구」『언어과학연구』21, pp.189-222.

[資料]

韓国国立国語院 21世紀世宗計画コーパス(<https://ithub.korean.go.kr/>)

(新潟県立大学国際地域学部)

kimsr@unii.ac.jp

韓国語教育研究 (第12号)

2022年9月15日 発行

発行者 文 嬉眞

発行所 日本韓国語教育学会

〒577-8052 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学 国際学部 酒匂康裕 研究室気付

編集者 『韓国語教育研究』編集委員会
文慶喆、李相穆、柳朱燕、金珉秀、
金昌九、權恩熙

印刷所 株式会社 仙台共同印刷
